



千葉大学医学部同窓会報

第106号

題字 鈴木五郎

編集発行者

千葉大学医学部

ゐのはな同窓会報編集部

〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1

千葉大学医学部内

ゐのはな同窓会

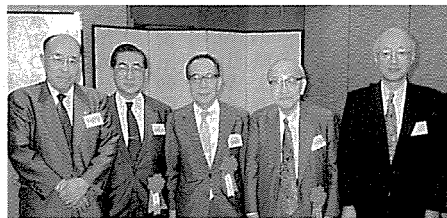
電話 (043) 222-7171 内線5026

平成6年度

ゐのはな同窓会総会 開催

平成6年度ゐのはな同窓会総会が、東京ゐのはな会の主催により、平成6年6月25日(土)午後1時半より、東京のホテルオークラにおいて開催された。貫洞副会長の司会のもと、名尾良憲会長の挨拶と物故者への黙祷の後、近藤医学部長より医学部の近況報告が行われた。次いで、大藤常任理事より平成5年度の会務報告が行われた。引き続き、名尾会長が議長となり、役員改選、会則の改正、平成6年度予算案などの事項について討議が行われ、新会長に井出源四郎先生を選出するなどの決定が行われた(議事内容の詳細は第5面に掲載)。

総会終了後、懇親会が東京



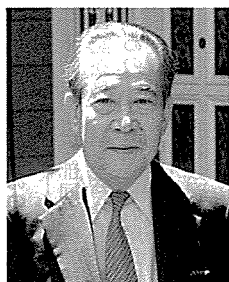
左より渡辺副会長・加納副会長・井出会長・名尾名誉会長・近藤副会長

ゐのはな同窓会会長新任のご挨拶

井出 源四郎(昭19卒)

な同窓会総会に於て、名尾良憲前会長(名誉会長)ご勇退の後を受け継いで、伝統と名誉ある本会々長の重任を仰せつかることとなりました。

去る6月25日、東京ゐのはな会主催の今年度本学ゐのはな



素より浅学非才。その任に堪え得るや否や心中甚だ心許無い念と、同時に今日迄半世紀の永きに亘って、同窓各位

から多くのことを賦与されて

力強い活性的息吹を具現しつつあることは、まことに有難いことと言わねばなりません。茲に深い敬意と感謝を捧

幸いにして名尾前会長の二期六年に及ぶご指導と、これを支えてきた貫洞一夫副会長を始めとする執行部の皆さんの積極果敢なご協力により、

今日、本会が本来の目的たる

同窓の親睦発展の実を挙げる

育った母校同窓会に対するせめてものご恩返しをとの思い

とが交錯する中で、この重責をお引き受けする決意を致しました。



医学部長に高橋英世教授(昭32卒)

千葉大学の第十代学長に、理学部長の丸山工作教授(東大・理昭28卒)が、全学助手以上の投票による選挙の結果選出された。任期は本年8月

千葉大学第十代学長に丸山工作理学部長選出される

氏の「ゐのはな同窓会の在り方」と題する、当時の世相を背景とする同窓会に対しての抱負の記述であります。孰れも私の心を揺さぶり、少からざる感動を覚える記録でありました。機会を得てご一読あらんことをお勧めして止みません。

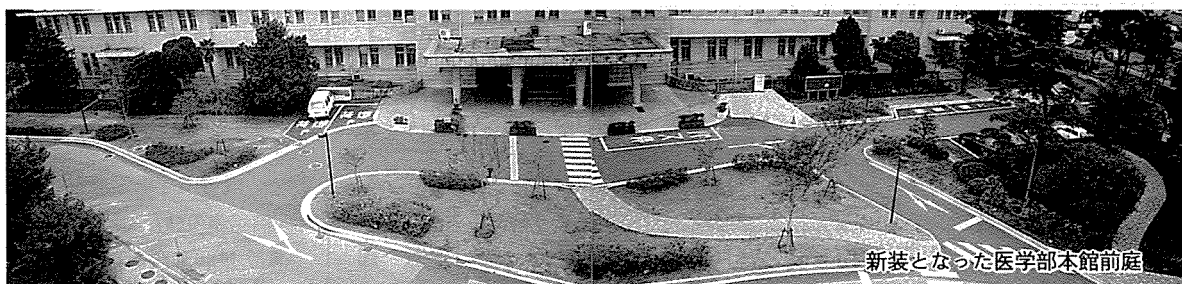
平成6年7月31日をもって任期満了となった近藤洋一郎前医学部長の後任として、高橋英世小児外科学教授が新医学部長に就任された。任期は本年8月1日より平成8年7月31日である。

本会々則の第三条に「本会は母校と緊密な関連を保ち、会員相互の親睦を図り、併せて医道の昂揚に努めることを目的とする」と記されています。これは例えてみれば「級会」と言う横系と、先輩後輩と言う縦系によって織りなされる「錦の織物」とも考えられ、強靱にして燦爛たる逸品にするのか、脆弱にして空疎なる布とするのかは、会員総て

会費納入のお願い

平成6年度分の会費の納入をお願いします。同封の振込用紙を用い御送金下さい。なお、本年度より年間三千円となりましたのでお含みおき下さい(平成6年6月25日の総会にて承認)。

(二面に続く)



新装となった医学部本館前庭

同窓会の今昔

あのはな同窓会副会長 貫洞 一夫

千葉大学医学部同窓会報第 百記念号に記載されている

「あのはな同窓会長名尾憲先生」の会長再任の挨拶と、「あのはな同窓会副会長井出源四郎名誉教授」の四金会に就いての原稿によって明らかにされているように、あのはな同窓会は、ともすると昨今衰退気味であった。

だからこそ、我々は名尾会長と共に、同窓会の活性を取り戻す為の努力を始めたわけである。

その努力結果の変遷は、あのはな同窓会理事会議事録として、同窓会報紙上に、その都度報告済である。

今期に於ける同窓会運営の改正点を要約すれば、次の3

(一)面続き・井出源四郎あのはな同窓会長挨拶

の皆さんの認識と実行にかかっているものと言って過言ではないと考えます。私自身は昭和三十年代後半記念講堂の竣工を機に同窓会の再建に踏み出し、以来今日まで同志の方々と多少なりとも本会の歩みとともに関わりを持たせていただき、その間歴代会長を始めとして多くの先輩諸兄、そして又後輩諸君との厚誼の中から、どれほど多くの啓示

を得ましたように、今日、本会は執行部の熱心な討議と献策によって、組織の確立充実とともに、時勢に適合した会則の改訂、永年に亘って据え置かれていた会費の増額による資金の確保、情報交流の基盤である会報の定期

地方の情報及び意見を掌握し、且つ本部理事会の情報伝達のスピード化への路を開いた。と同時に、この理事構成の拡大は、また千葉大学医学部同窓会員総数の大部分の人口補足を可能とする。

第3点は、以上の改正を具体化、確実化する為にも、あのはな同窓会規約を当然改正しなければならない。目下理事会にて規約成案化のため、議論検討中である。

顧みれば、あのはな同窓会運動は、灰燼に帰した昭和23年頃のキャンパスから生まれ、戦争の傷痕より立ち直るべく起り、当時の加賀谷教授や花岡先輩を中心に、同志相依り、向学の志と共に愛校の機運大いに昂まったと見聞きしている。

また時移り、昭和38年頃ともなれば、同窓会の団結が緩

運動は、灰燼に帰した昭和23年頃のキャンパスから生まれ、戦争の傷痕より立ち直るべく起り、当時の加賀谷教授や花岡先輩を中心に、同志相依り、向学の志と共に愛校の機運大いに昂まったと見聞きしている。

また時移り、昭和38年頃ともなれば、同窓会の団結が緩

運動は、灰燼に帰した昭和23年頃のキャンパスから生まれ、戦争の傷痕より立ち直るべく起り、当時の加賀谷教授や花岡先輩を中心に、同志相依り、向学の志と共に愛校の機運大いに昂まったと見聞きしている。

また時移り、昭和38年頃ともなれば、同窓会の団結が緩

運動は、灰燼に帰した昭和23年頃のキャンパスから生まれ、戦争の傷痕より立ち直るべく起り、当時の加賀谷教授や花岡先輩を中心に、同志相依り、向学の志と共に愛校の機運大いに昂まったと見聞きしている。

また時移り、昭和38年頃ともなれば、同窓会の団結が緩

運動は、灰燼に帰した昭和23年頃のキャンパスから生まれ、戦争の傷痕より立ち直るべく起り、当時の加賀谷教授や花岡先輩を中心に、同志相依り、向学の志と共に愛校の機運大いに昂まったと見聞きしている。

また時移り、昭和38年頃ともなれば、同窓会の団結が緩

小林龍男名誉教授 逝かれる

小林龍男千葉大学名誉教授(昭和7卒)は、8月14日午後6時19分、急性白血血病によりご逝去なされました。享年89才。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ことが今後の大きな課題と考えられます。しかし幸いなことに現執行部の皆さんの熱意と実行力は必ずや、これらの難題に対して素晴らしい智恵を見出し下さることと期待致しております。

いづれにせよ、日々織物は織り続けられなければならない。私にとっては身に余るご推挙をいただき、本会々長の重責を担わさせていただきました以上、及ばずながら献身したいと存じます。何卒同窓各位におかれましては、本会発展のために何なりとご助言、ご意見を寄せいただき、相変らざるご支援とご鞭撻を衷心よりお願い申し上げます。

稿を終るに当り、今年の夏は殊のほか炎暑、同窓会員各位の皆さんには如何お過ごしでございましたでしょうか。向後益々のご健勝を念じつつ粗辞を連ねてご挨拶とさせていただきます。

千葉大学医学部 教授就任の挨拶

耳鼻咽喉科学講座

今野 昭義 (昭36卒)



この度、平成6年3月に退官された金子敏郎教授の後任として、8月1日付けで、耳鼻咽喉科学講座を担当させていただきますこととなりました。私は昭和36年に当医学部を卒業、1年間のインターンの後、北村武教授が主宰されておられた耳鼻咽喉科学教室に入局いたしました。4年間の大学院と6ヶ月の助手生活、大学院前後の2回(それぞれ2年間)の米国留学の後、昭和47年には戦後初の新設医学部となった秋田大学医学部の助教授として、同門の戸川清教授(昭和32卒)と共に新設医学部の教室作りのために転出したしました。

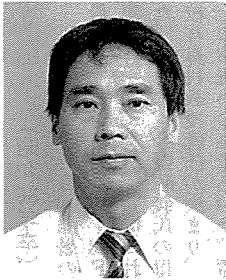
1期生が卒業するまでの6年間は教授も含めて4名前後の医局員で県立病院から大学

もあり、昭和63年母校に戻らせていただき、今日にいたっております。

私は大学院入学以来、当教室の伝統である上気道の病態生理、特に鼻アレルギー、睡眠時閉塞性呼吸障害、頭頸部悪性腫瘍の集学療法、特に再建外科を組み入れた手術療法の開発、唾液腺疾患を主なテーマに臨床、研究を行ってまいりました。今後は、金子敏郎教授が築かれた喉頭および音声、言語の臨床、研究を含めて、これらを発展させ、豊かな人材を擁する当教室と耳鼻咽喉科学全体の進歩のために微力ながら努力いたしますと考えております。皆様からのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

麻酔学講座

西野 卓 (昭47卒)

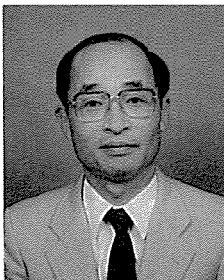


平成6年8月1日付けで医学部麻酔学講座の教授を拝命致しました。昭和60年に母校千葉大学より国立がんセン

ターに Outreach して以来9年間、癌治療の最先端で一麻酔科医として奮闘してきたものと自負しております。私は卒業当初より基礎医学と臨床医学の橋渡しのような仕事をしたいという気持ちが強く、そのため麻酔学を専攻しましたが、今でも自分の選択に間違いはなかったと思っています。麻酔学は外科手術時の患者の疼痛を除くことを目的とし

肺癌研究施設病理研究部

大和田 英 美 (昭38卒)



平成6年3月末に停年退官されました林豊教授の後任として、この度肺癌研究施設病理研究部門を担当することになりました。

門の一つである麻酔科がその「かなめ」となるべく責任と役割を果たさなければならぬと考えております。国立大学および大学附属病院を取り巻く環境は厳しく、安閑としてはいられない状況と聞き及んでおります。このような状況下におきましては、大学医学部および附属病院に本来求められている教育、診療、研究をより充実し、その成果を示すことが大学人に与えられた使命だと自覚しております。微力ながら母校のさらなる発展のため、できる限りの努力をする所存であります。皆様からのご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

ことの責任の重大さを痛感いたしました。私は千葉大学医学部を昭和38年に卒業し、インターンの修了後、故滝澤延次郎教授の主宰されておりました第一病理学教室に大学院生として入局致しました。研究課題は人体および動物実験による大動脈粥状硬化症の研究でした。

大学院の修了後副手を1年間勤め、昭和44年には林先生の後を追うように肺癌研究施設病理研究部門に移りました。病理研究部門では制癌剤による肺癌の組織学的変化、化学発癌剤や放射性物質あるいは大気汚染物質による肺癌の発生実験、わが国における肺癌組織分類標準の原案作成、肺癌の免疫組織学的研究、肺における線維化巣の発癌に及ぼす影響などについて研究を行ってまいりました。

肺癌による死亡率は上昇の一途をたどっています。肺癌の病理学も患者の診断、治療に役立つ研究を行う必要を感じております。今回、特に臨床系の先生方から病理研究部門の今後の在り方について示唆に富むお話を伺う機会を得ました。今後も教室員一同力を合わせて新しい病理研究部門を目指して努力したいと考えております。同窓の諸先生方の一層のご指導、ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

クラス会

八千会

(昭和26年医専卒)

毎年行われているクラス会が平成6年5月21日(土)、広島J Rターミナルホテルに於いて開催された。参加者は2名の夫人を加えクラス36名中21名であった。中島正純幹事(呉市在住)の司会で始まり森会長挨拶、太田常任理事の年間経過報告後、物故会員、特に出席予定であり本会広報担当で敬虔なクリスチャンであった石川鉄男君の突然の訃報に改めて全員でご冥福を祈念した。

翌22日は幹事肝煎りのバスで市内・宮島を観光した。当地は申す迄もなく原爆被災地であり、長崎と共に世界的に最も意義深い所であり、初めて訪れた方にはあらためて深い感銘を与えた事と思う。振り返れば戦乱の後、内外各地から学業半ばの者が寄合っ同し釜の飯を食った仲間であり、戦乱による「破船」の中から立ち上がる者として八千会を結成した所以がここにある。今年は卒後43年、65才から69才の白髪仲間の今後の健康と、来年のクラス会の

集りを誓い解散した。

(幹事・内藤 記)

三六会

(昭和36年卒)

平成6年7月31日(日)酷暑の最中、センシティタワー23F東天紅で三六会が開催された。それは、今野昭義氏の母校耳鼻科教授就任が決まり、そのお祝いの会であった。諏訪部博幹事(千葉市医師会副会長)の尽力と今野氏の人徳で、知らせてから1週間もなかったが、27人が集まった。

会は、横山健郎幹事(国立佐倉病院院長)の挨拶、中島伸之幹事(一外教授)の乾盃の音頭で始まったが、当直呼出しの為、中途で帰った末吉貫爾県立がんセンター部長以



外、歓談ととまる事を知らず、遂に、二次会のベリエ地階の酒場の閉店時間まで続いた。

私共三六会は、6年制となつた医学部第1回の卒業生で、本年2月26日(土)千葉をこ

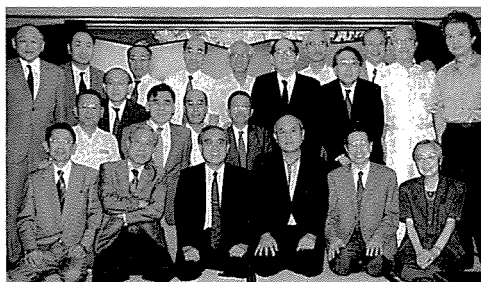
10F桃源で開催された時は、白石博康筑波大教授、小越章平高知医大教授、山崎修道国立予防衛生研究所長等の昇任を祝ったが、これで、教授13名、勤務医34名、開業医20名、その他(研究所勤務など)11名となった。

7月三六会出席者は次の通り
石原運雄・小幡五郎・青木謙加藤昌義・箕山富夫・谷口滋黒田健昭・今野昭義・関幸雄齊藤利隆・諏訪部博・谷合明末吉貫爾・副島訓子・福井進田部井徹・中田義隆・洲上隆中島伸之・野尻雅美・前島清福山悦男・松本一暁・長谷川修司・松下嘉一・吉野明昭横山健郎 (青木謙一 記)

三一會

(昭和31年卒)

平成6年7月16日、異常気象の猛暑に耐えて、東京は上野の梅川亭に23名が参集した。昭三一会は現役組が昭和6年に生まれた。つまり、平成6年は次々に63歳をクリアする。「降らぬ雨、昭和も遠くなりけり」。本学教授山口豊君の会計報告後の学内事情によ



昭八会

(昭和12年卒)

森博志・山口豊・西原源太郎森碧・山崎武幹事、小野清四郎・滝沢明祐松丸信太郎(上野恭一 記)

昭和8年4月に千葉医科大学に入學し、昭和12年3月に卒業した「昭八会」の第28回クラス会が、平成6年6月19日(日)東京錦糸町ロッテ会館に於て開催した。当日は生憎く梅雨空で、出席者は例年よりやや少ない10名であった。本年度幹事の蔵彰君が開会の挨拶を述べ、昭和20年に戦死された荒木宣夫君、毛塚徳太郎君、戸崎芳樹君ら数名の級友の50回忌に当り、ねんごろな



黙祷を捧げた。

名古屋から出席された住田満也君の乾杯の音頭によって開演、学生時代の思い出話や戦中戦後の回顧談に花が咲いて、お互いに80歳を過ぎてても、こうしてクラス会に出席出来る幸せをしみじみ感じた。

出席者10名(会員6・夫人4)菅井規矩雄・晴子・小松源二・住田満也・エイ・鈴木敏・久富良次・翠・稲生讓・蔵彰(追記)

計報：本年のクラス会が終つて間もなく、上川名誠一君が平成6年6月28日に惜しくも逝去され、昨年のクラス会には、お元氣に出席されましたのに、哀悼の念を禁じ得ません。此処に謹んで御冥福を祈ります。(幹事 久富良次 記)

猪之鼻奨学会

への寄付

(平成6年4月以降)

金子 敏郎(昭和28卒・千葉大学名誉教授・医学部)

50万円

水口 公信(昭和28卒・千葉大学名誉教授・医学部)

30万円

有水 昇(昭和29卒・千葉大学名誉教授・医学部)

30万円

林 豊(昭和25卒・千葉大学名誉教授・医学部)

30万円

会 計 報 告

平成5年度決算報告

収入の部

単位 円

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
会 費 収 入	6,200,000	6,127,000	73,000
基金運用収入	1,500,000	1,311,012	188,988
名簿頒布収入	9,000,000	8,391,026	608,974
寄 附 金	100,000	57,000	43,000
雑 収 入	0	695,033	△ 695,033
当期収入合計	16,800,000	16,581,071	218,929
前期繰越収支差額	8,613,179	8,613,179	0
収 入 合 計	25,413,179	25,194,250	218,929

平成6年度予算案

収入の部

単位 円

科 目	平成6年度	平成5年度	差引増減額
会 費 収 入	9,000,000	6,200,000	2,800,000
基金運用収入	1,300,000	1,500,000	△ 200,000
名簿頒布収入	200,000	9,000,000	△8,800,000
寄 附 金	100,000	100,000	0
雑 収 入	1,000,000	695,033	304,967
前期繰越収支差額	5,757,065	8,613,179	
収 入 合 計	17,357,065	25,413,179	△8,056,114

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
1. 事 業 費	(9,700,000)	(10,807,810)	(△1,107,810)
会 報 発 行	1,300,000	709,014	590,986
名簿発行費	5,000,000	5,984,988	△ 984,988
名簿管理委託費	500,000	748,808	△ 248,808
新会員歓迎費	300,000	300,000	0
顕彰奨学金	300,000	300,000	0
教育助成金	2,300,000	2,765,000	△ 465,000
2. 事 務 費	(9,955,000)	(5,629,375)	(4,325,625)
備 品 費	300,000	324,535	△ 24,535
消 耗 品 費	800,000	193,240	606,760
通 信 印 刷 費	3,000,000	1,743,545	1,256,455
振替手数料	300,000	242,460	57,540
会 議 費	1,000,000	417,293	582,707
慶 弔 費	100,000	48,191	51,809
委 員 旅 費	450,000	94,450	355,550
支 部 連 絡 費	300,000	60,000	240,000
人 件 費	2,300,000	1,983,780	316,220
退職金繰入金	105,000	105,000	0
謝 金	500,000	110,000	390,000
雑 費	800,000	306,881	493,119
3. 基金繰入額	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)
4. 予 備 費	(2,758,179)	(0)	(2,758,179)
当期支出合計	25,413,179	19,437,185	5,975,994
次期繰越収支差額		5,757,065	
支 出 合 計	25,413,179	25,194,250	218,929

支出の部

科 目	平成 6 年度	平成 5 年度	差引増減額
1. 事 業 費	(4,800,000)	(9,700,000)	(△4,900,000)
会 報 発 行 費	1,300,000	1,300,000	0
名 簿 発 行 費	0	5,000,000	△5,000,000
名簿管理委託費	800,000	500,000	△ 300,000
新会員歓迎費	300,000	300,000	0
顕彰奨学金	300,000	300,000	0
教育助成金	2,100,000	2,300,000	△ 200,000
2. 事 務 費	(8,905,000)	(9,955,000)	(△1,050,000)
備 品 費	300,000	300,000	0
消 耗 品 費	800,000	800,000	0
通信・印刷費	3,000,000	3,000,000	0
振替手数料	300,000	300,000	0
会 議 費	800,000	1,000,000	△ 200,000
慶 弔 費	100,000	100,000	0
委 員 旅 費	200,000	450,000	△ 250,000
支 部 連 絡 費	200,000	300,000	△ 100,000
人 件 費	2,300,000	2,300,000	0
退職金繰入金	105,000	105,000	0
謝 金 費	300,000	500,000	△ 200,000
雑 費	500,000	800,000	△ 300,000
3. 基 金	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)
基金繰入額	3,000,000	3,000,000	0
4. 予 備 費	(652,065)	(2,758,179)	(△2,106,114)
支 出 合 計	17,357,065	25,413,179	△8,056,114

医学部へ教育助成金を贈りました。

内訳は、医学部長活動資金(30万円)、5階講堂のクーラー設置(昨年度250万円、本年度150万円)、白菊会(30万円)です。

平成6年度

ゐのほな同窓会総会議事内容

1. 役員改選について 佐藤甫常任理事より、新役員についての提案があり承認された。また、名尾会長より高齢等の理由により退任したい旨の表明があった。次いで貫洞副会長より、新役員についての補足説明があり、新会長に井出現副会長、新副会長に加納理事および近藤現医学部長と渡辺現副会長を推薦する旨提案があり、これら新役員を全会一致で承認した。2. 名誉会員について 佐藤(甫)常任理事より、有水昇金子敏郎、林豊、水口公信、奥井勝二各先生を名誉会員に推薦したい旨提案があり、承認された。3. 会則改正について 清水常任理事より会則改正の要点の説明があり、新会則案を承認した。村瀬氏より、討議資料の事前配布、ゐのほな同窓会の活性化のために、若い会員の役員選出や総会への出席を促進したいとの要望があり、今後善処することとした。4. 平成5年度決算および平成6年度予算について 清水常任理事より平成5年度の決算報告が行われ、一部質疑応答があり決算報告を承認した。小野会計監事より決算報告が適正に行われているとの監事報告があった。また、清水常任理事より平成6年度予算案の説明があり、承認された。5. 会費について 清水常任理事より現行会費は昭和54年以降据え置かれており、諸般の事情から値上げしたい旨説明があり、平成6年度から年会費三千円、入会金二千円とすることが承認された。6. 同窓会賞(仮称)について 嶋田常任理事よりゐのほな同窓会の活性化の一案として「ゐのほな同窓会賞」を設ける案が提案され、新役員を中心に実現を目指して前向きに検討することが了承された。

祝

叙勲 表彰

国公立病院 勤務医師名簿

高橋和久(昭51)整形外科

岡陽一(昭56)脳外科

小林紘一(昭42)整外

三宅和夫氏(昭21年卒)

勲四等瑞宝章

石橋 祝氏(昭22年卒)

勲四等瑞宝章

伊藤敏夫氏(昭30年卒)

藍綬褒章

貫洞一夫氏(昭22年卒)

東京都社会保険診療報酬請求審査委員会委員

三十年間勤続感謝状

市川平三郎氏(昭23年卒)

高松宮妃癌基金学術賞

石坂 明氏(昭33年卒)

救急医療功労者神奈川県知事表彰

小高 進氏(昭24年卒)

朱 明仁氏(昭40年卒)

第22回医療功労賞(讀賣新聞社・千葉)

千葉大学

医学部長

高橋英世(昭32)

教授昇任

今野昭義(昭36)耳鼻咽喉科学

西野 卓(昭47)麻醉学

大和田英美(昭38)

肺癌研究施設病理研究部門

助教昇任

稲葉憲之(昭47)産婦人科学

講師昇任

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

松井英雄(昭55)産婦人科学

国公立病院 勤務医師名簿

千葉県立鶴舞病院

院長 中村常太郎(昭32)心外

診療部長 中川康次(昭36)心外

部長 松本博雄(昭34)外科

斎藤 學(昭44)皮膚

鈴木亮二(昭49)外科

村山博和(昭55)心外

石川隆憲(昭56)循環

畦元亮作(昭58)内科

本間甲一(昭59)神内

国保町立軽井沢病院

院長 横山 宏(昭34)外科

片山純男(昭34)産婦

出浦喜丈(昭48)内科

宮尾陽一(昭54)外科

君津中央病院

院長 北方勇輔(昭35)外科

神田芳郎(昭34)内科

福山悦男(昭36)内科

鈴木紀彰(昭50)内科

川口新一郎(昭30)内

新井一夫(昭36)産婦

森 博通(昭40)内科

田中壽一(昭43)外科

本宮 健(昭34)小児

高橋秀禎(昭44)公衛

桜井 涉(昭55)内科

神山正明(昭46)産婦

高橋容子(昭44)皮膚

須田純夫(昭52)脳外

田中 正(昭49)整外

永島 薫(昭56)泌尿

鳥谷博英(昭57)脳外

鳥谷博英(昭57)脳外

鳥谷博英(昭57)脳外

鳥谷博英(昭57)脳外

院長 岡陽一(昭56)脳外科

篠崎俊秀(昭57)内科

田島和幸(昭58)小児

豊根知明(昭60)整外

柳澤真司(昭60)外科

村松俊範(昭61)小外

深澤敏男(昭57)呼外

大曾根義輝(昭62)小

船橋市立医療センター

院長 佐藤裕俊(昭38)外科

小澤 俊(昭43)内科

渡辺義二(昭45)外科

牧野定夫(昭47)小児

高原善治(昭49)心外

李 元浩(昭53)整外

佐藤信夫(昭55)泌尿

宮崎三忠(昭55)耳鼻

稲垣雅行(昭55)循環

唐司則之(昭47)外科

須藤義夫(昭55)心外

丹羽淳子(昭55)小児

福澤 茂(昭57)循環

嶋 勇吉(昭58)小児

三村雅也(昭58)整外

春日井政博(昭59)内

沼井 毅(昭59)麻醉

千葉労災病院

名譽院長 百瀬剛一(昭13)泌尿

渡辺昇平(昭20)内科

稲垣義明(昭26)内科

石原雄雄(昭36)内科

鈴木 秀(昭43)外科

並木徳重(昭33)泌尿

佐藤尚信(昭33)精神

今野睦男(昭39)病理

小野美栄(昭39)リハ

渡辺 攻(昭40)脳外

小林紘一(昭42)整外

林崎勝武(昭44)耳鼻

遠藤信夫(昭48)産婦

中村哲雄(昭49)整外

岩間章介(昭50)内科

柳 重行(昭50)泌尿

塚本 剛(昭51)外科

田口忠男(昭52)内科

志村賢範(昭53)外科

石毛英男(昭53)産婦

小池洋一(昭54)皮膚

今井 均(昭54)内科

雄賀多聡(昭55)整外

三村正裕(昭56)内科

真田正雄(昭56)外科

小澤義典(昭57)脳外

下山惠美(昭59)麻醉

崔 世浩(昭60)内科

芹澤英里(昭62)眼科

平成五年度 あのはな祭会計報告

本年度開催されたあのはな祭の会計報告が、実行委員会学生より医学部厚生係に報告された。収入は医学部、看護学部、看護学校、放射線技師学校卒業生の寄付によるもので、総額二百七十三万一千五百五十八円であった。支出総額は二百六万三千五百七十四円、繰越金は六十六万七千九百八十四円となった。なお、本年度あのはな祭の開催は、学生の自主的運営参加がなく、中止となっている。

おくやみ

宮内 俊氏 (大10)

加藤 清氏 (大12)

吉田圭止氏 (昭6)

小林龍男氏 (昭8)

小沢二郎氏 (昭9)

竹内勝啓氏 (昭10)

勝 正敏氏 (昭11)

上川名誠一氏 (昭12)

北見 靖氏 (昭13)

横山倬夫氏 (昭14)

吉田正雄氏 (昭14)

大倉正二郎氏 (昭14)

高梨三樹氏 (昭14)

武田 浩氏 (昭18)

西谷三四郎氏 (昭18)

長嶋豊晴氏 (昭19)

吉見健幹氏 (昭23)

五ノ井哲郎氏 (昭23)

紫芝輝之氏 (昭24)

内山 曉氏 (昭33)

故 吉田清彦先生 の思い出

羽鳥 弘 (昭和26卒)

私の旧制中学校(現都立江北高校)は東京府立第十一中学校で吉田清彦先輩は一回生で私は二回生である。足立区にあって、多くの上級生、同級生が千葉の医学部を卒業している。

吉田先輩は長身で柔道が強く、卒業後、北海道の炭坑病院の医師であった事よりも、

国体柔道の北海道代表選手で有名であると現地の知合いから伺ったものである。私も旧制浦和高校柔道部の参段で(現五段)、彼とは互角に戦えると思っていたが、私は寝業が専門なので、彼の方が上かも知れない。そんなうわさから10年位たつてから或る日、日本医師会雑誌を読んでいたら、彼が常任理事で、しかも社会保険制度担当として、わが国の医療保障制度、老人保健、医療問題全般に亘って果された功績はまことに偉大であることを知りました。この日本医師会役員人事が永久に続かれん事を祈って居りました所、平成5年末、3年間に及ぶ癌との闘病の結果、壮烈な戦死をされたこと新聞紙上で拝見し、誠に残念至極でした。彼こそは国政、医療を医する「上」の医師である「国手」の称号を奉るに値する偉大な名医であると信じて居ります。以って吉田先輩瞑せられんことを。

編集後記

井出編集委員長が同窓会長になられたあと、私が同委員長を引受けました。会報について御意見を寄せて下さい。次号は一月発行予定です。クラス会、各地区あのはな会、病院だよりなどで同窓生の活躍をお知らせ下さい。(嶋田裕)